

2008年度

(財)日本バドミントン協会

審判員検定会資料

茨城県バドミントン協会 審判部編

講義順序

1. 歴史 世界・日本 1、2 ページ
2. 競技規則
フォルトの種類 3 ページ
3. 大会運営規程
スコアシートの付け方 4 ページ
4. 公認審判員規程(口述)
審判員の責務と処置すべき訴え(競技規則第17条) p19-
主審への助言 第3条 P78- 第4条 P92-
サービスジャッジへの助言 第5条 P92-
線審への助言 第6条 P94-

付録 主審のコールの仕方 別 紙

1 歴 史

世 界 (2007.07.22.一部改正)

誕生前期	ヨーロッパ各国で様々な「羽根つき遊び」が行われていた。 1390年のイギリス絵画(2人の農夫が羽子をついている)にその様子を見ることができる。
誕生期	1830年代に英国のイングランドのサウスグロスターシャー(州)のバドミントン村にあるボーフォート公爵の居城バドミントンハウスなどでも行われていた。1830.1.12.サマーセット夫人が2117回ついた話 いくつかの羽根つき遊びの中で、直接バドミントンの誕生につながったのは、バトルドア・シャトルコック(battledore and shuttlecock)である。 1860年に、ロンドンの文具商がゲーム一式に「バドミントン・バトルドアー」という名を付けて販売した。
	結論 バドミントンは1860~70代に英国で誕生した。 その後、英国各地でバドミントンクラブが誕生した。 1876年 最初のルールブック(セルビー大佐ら) 1887年、1890年 改訂出版(ハート氏、ヴィダル氏) 1893年 英国バドミントン協会設立 14のクラブ 会長・ドルビー大佐 ルールの統一と普及 1899年(明治32年)第1回全英バドミントン選手権大会開催 (ダブルスのみ、翌年からシングルスも)
普及期	1934年(昭和9年)国際バドミントン連盟(IBF)設立 International Badminton Federation (イギリス、カナダ、デンマーク、フランス、オランダ、ニュージーランド、アイルランド、スコットランド、ウェールズの9協会)
中断期	第1・2次世界大戦
発展期	1948~9年(昭和23~4年)第1回世界男子団体バドミントン選手権大会(トマス杯)開催[10か国] 1956~7年(昭和31~2年)第1回世界女子団体バドミントン選手権大会(ユーパー杯)開催[11か国] 1977年(昭和52年)第1回世界バドミントン選手権大会(個人)開催 1978年(昭和53年)世界バドミントン連盟(WBF)結成(中国・マ) 1981年(昭和56年6月)IBFとWBFが合体してIBFとなる 1988年(昭和63年)IBF競技規則大幅改訂 1989年(平成元年)第1回ステイルマン杯争奪世界男女混成団体選手権 1992年(平成4年)第1回世界ジュニア個人選手権大会開催
発展期	" " 1999年(平成11年)アジア大会で、米倉加奈子WS優勝 2003年(平成15年)4月 ヨネックスOPジャパン開始 2004年(平成16年)5月 20回ユーパー杯 中韓日本デンマーク " 8月 14回世界選手権(個人戦)山本・山田組3位 " " アテネ五輪 2005年(平成17年)3月 96回全英OP 広瀬栄理子WS3位 10月 デンマークオープン 小椋・潮田組優勝 2007年(平成19年)6月 10回ステイルマン杯 中インドネシア韓 イギリス " IBFがBWF(Badminton World Federation)と改称 同時に、ABCがBAC(Badminton Asian Confederation)と改称 BWF(IBF改称)会長 KANG Young Joong(Korea) 加盟国、準加盟国・地域数は、158 2008年(平成20年)5月 25回トマス杯 中韓国マレーシアインドネシア " " 22回ユーパー杯 中インドネシア韓国ドイツ

* 資料協力 筑波大学名誉教授阿部一佳氏

日 本

天明7年(1787)	「紅毛雑話」(森島中良著)に掲載
	「長崎阿蘭陀(オランダ)屋敷図」長崎・出島資料館所蔵
大正後期(1920年代)	名古屋、大阪、横浜各YMCAで活動
昭和初期	横浜、神戸の残留外人やYMCA関係者の間でプレーされた。
昭和10年頃	横浜YMCAが正式採用
昭和13年	神奈川県バドミントン協会設立
(昭和16年~20年)	(太平洋戦争)
(昭和17年)	(慶応大学クラブ発足)
*昭和21年(1946)	日本バドミントン協会(NBA)設立(11月2日)
22年	全日本バドミントン選手権大会(現総合)開始 (現在全日本総合バドミントン選手権大会という。)
23年	日本体育協会に加盟(12月21日)
24年	第4回国民体育大会に初参加 (一般・高校男女と教員男子団体の5種目)
25年	全日本学生バドミントン選手権大会開始
"	全国高等学校バドミントン選手権大会開始
26年	全日本実業団バドミントン選手権大会開始
27年(1952)	国際バドミントン連盟に加盟(3月19日)
29~30年	第3回トマス杯大会に初参加
33年	全日本社会人バドミントン選手権大会開始
34年	アジア連盟加入
37年	全日本教職員バドミントン選手権大会開始
39年	第6回トマス杯大会を東京で開催
41年	第4回ユーパー杯大会に初参加で優勝
44年	第5回ユーパー杯大会を東京で開催、日本初防衛 以後第6, 8, 9回大会優勝
	全日本女子バドミントンチャンピオンズトーナメント大会開始
46年	全国中学校選抜バドミントン選手権大会開始
47年	全国高校選抜バドミントン選手権大会開始
52年	全日本高等専門学校バドミントン選手権大会開始
54年	日本リーグ開始
55年	ジャパンオープン選手権大会開始
57年	全日本ジュニアバドミントン選手権大会開始 NBAが財団法人となる。
58年	全日本家庭婦人バドミントン競技大会(現レディース)開始
59年	全日本シニアバドミントン選手権大会開始
60年	若葉カップ全国小学生大会開始
63年	全国スポーツ・レクリエーション祭バドミントン競技開始
平成4年	全国小学生バドミントン選手権大会開始
10年	第13回アジア競技大会バドWSで米倉加奈子優勝(38年振り)
12年	全日本中学生バドミントン選手権大会開始
	全国小学生ABCバドミントン大会開始
13年	日本スポーツマスターズバドミントン競技開始
14年	日本バドミントンジュニアグランプリ開始
18年	全日本レディース(個人戦)バドミントン選手権大会開始
(注)	印は日本バドミントン協会が主催、または主管する第1種年次大会である。

平成16年4月1日	NBA会長に衆議院議員綿貫民輔就任	現在に至る	
(注) NBA歴代会長	初代 昭和22年~	故白山源三郎	
	第2代 昭和23年~	故山田文雄	
	第3代 昭和31年~	故本田弘敏	
	第4代 昭和56年~	故桜内義雄	2003.7.5.歿
	第5代 平成16年~	綿貫民輔	

2 フォルトの種類

2006.10.1.現在

次の37種ある。(注) S = シャトル R = ラケット

サービス関係

第13条第1項、第9条第1項

- 1 不当に遅らせた [9-1-(1)]
- 2 境界線に触れた [- (2)]
- 3 両足の一部分がコート面に接していなかった [- (3)]
- 4 サーバーが最初にSの台を打たなかった [- (4)]
(羽根打ちサーブ)
- 5 S全体がサーバーのウェストより下でなかった [- (5)]
- 6 Rのシャフトが下向きでなかった [- (6)]
- 7 Rの前方への動きが継続しなかった [- (7)]
- 8 SがサーバーのRから上向きに飛行し、ネットの上を通り、レシーバーのサービスコートに落ちなかった [- (8)]
- 9 Sの打ちそこない(空振りほか) [- (9)]
- 10 サーバーのパートナーがレシーバーの視界をさえぎった [9-5]
- 11 Sがネットの上に乗ったとき 13-2-(1)
- 12 Sがネットを越えた後、ネットにひっかかったとき 13-2-(2)
- 13 レシーバーのパートナーがシャトルを打った 13-2-(3)

一般共通

- 1 Sがコートの境界線の外に落ちた 13-3- (1)
- 2 Sがネットを通りぬけるか、下を通った - (2)
- 3 Sがネットの上を越えなかった - (3)
- 4 Sが天井、壁に触れた - (4)
- 5 Sがプレーヤーの身体、着衣に触れた - (5)
- 6 Sがコート外の物、人に触れた - (6)
- 7 SがR上に捕らえられ保持されて、振り投げられた - (7)
- 8 Sが同じプレーヤーに2回連続して打たれた
- 9 Sがパートナー同士で連続して打たれた
- 10 Sがラケットに触れて、相手コートに向かわなかった
- 11 R、身体、着衣がネットや支持物に触れた 13-4- (1)
- 12 ネットの上から相手コートを侵した - (2)
- 13 RとSとの最初の接触点が打者側でなかった - (2)
- 14 ネットの下から相手コートを侵して、相手を妨害したり、注意をそらしたりした - (3)
- 15 相手の正当なストロークを妨げた - (4)
- 16 故意に相手の注意をそらした - (5)
- 17 インタ - バルの違反 16-7- (2)

その他

- 第16条の違反行為がはなはだしい、繰り返す、継続してやめないとき、例えば 13-5
- 1 プレーを継続しなかった [16-1]
 - 2 体力や息切れを回復するための遅延行為 [16-4]
 - 3 主審の許可なしにコートを離れた [5-(2)]
 - 4 プレーを故意に遅延、中断した [16-6-(1)]
 - 5 シャトルのスピードや飛び方を故意に変えた [- (2)]
 - 6 見苦しい服装、下品で無礼な態度、言動 [- (3)]
 - 7 不品行または不快な行動 [- (4)]
- ただし、1回めは警告 2回めはフォルト [16-7-(1)]
また、なお続けた場合、失格させることができる [- (2)]

3 スコアシート（得点用紙）のつけ方

次は、サービングサイド山田さん、宮路さん（東京都）とレシービングサイド今井さん、浜中さん（愛媛県）の第1ゲームの得点推移を記録したものである。

（注）ア～スは説明のための記号である。ゲームを始めるときの最初のサーバーにS、最初のレシーバーにRを書いておく。

アイウエオカキク

ケ

山田順一	S	0							4			6								
宮路一男				1	2	3				5					7	8				
今井正雄			1	2						6			8	9	10					
浜中 強	R	0					3	4	5			7					11	12	13	14

コ

サシス

	9					12													
				10	11					13		13							
		16							19	20		21	21						
15			S			17	18					21	21						

13:10停電
13:34再開

主審のコール

〔注 選手の紹介等省略〕

ア ラブ(0) オール、プレー

イ (フォルト)、サービスオーバー、ワン(1) ラブ(0)

〔注 フォルトは明らかなきときは省略する。〕

ウ (フォルト)、ツー(2)ラブ(0)

エ (線審がアウトのコールと合図)、サービスオーバー、ワン(1) ツー(2)

オ (フォルト)、ツー(2)オール

カ (フォルト)、スリー(3) ツー(2)

キ (線審がインの合図)、サービスオーバー、スリー(3)オール

ク (フォルト)、フォー(4) スリー(3)

(途中略)

ケ サービスオーバー、イレブン(11) エイト(8)、インターバル
(60秒のインターバルで40秒経ったら)

第 コート 20秒、第 コート 20秒(2回繰り返す)

(インターバルが終り次第)イレブン(11) エイト(8)、プレー

コ プレー イズ サスペンディド

〔注 このとき、S を記入し、その内容と時間を付記しておく。〕

(途中略)

サ トウエンティ(20) ゲームポイント トウエルブ(12)

シ サービスオーバー、サーティーン(13) トウエンティ(20)

ス ゲーム〔同時にストップウォッチを押す。〕

ファーストゲーム ワン バイ 今井さん、浜中さん(愛媛県)

トウエンティワン(21) サーティーン(13)

そして、第2ゲームも今井・浜中組が21 - 16で、試合が終了した場合、勝者署名をもらい、スコアシートの所定の欄に

今井正雄	2 {	21 - 13	} 0	山田順一
浜中 強 (愛媛県)		21 - 16		宮路一男 (東京都)

と書き、スコア、主審署名の欄を記入して、競技役員長(レフェリー)へ提出する。